

令和5年度第3回大野城市芸術文化振興審議会会議録

日 時：令和6年2月26日（月）15:00～16:30

場 所：市役所新館4階 421会議室

出席者：委 員 安河内俊明会長、長津結一郎副会長、糸山裕子委員
中嶋真理子委員、豊永蘭子委員、國分慎二委員
齋藤広樹委員

欠 席 松吉典子委員、小林京子委員

事務局 佐藤コミュニティ文化課長、中川コミュニティ文化課芸術文化担当係長、手島主事、辰野

資 料 【資料1】大野城市芸術文化振興プラン（中間見直し）素案」職員意見募集結果の概要について
【資料2】令和5年度までのスケジュール
【資料3】令和5年度の主な取り組み
【補足資料1】大野城市芸術文化振興プラン 基本施策の取り組み
【補足資料2】令和5年度大野城心のふるさと館実施事業（抜粋）
【参考資料】芸術文化情報サイト構成図

1 開会

事務局

本日のスケジュールについて説明。

プラン中間見直しの策定の報告と令和5年度の進捗状況の報告を行う旨説明。

2 報告事項 大野城市芸術文化振興プラン（中間見直し）策定について

事務局

資料1、プラン概要版、プラン冊子をもとに説明。

副会長

教育施策大綱との整合性のところで、質問がある。一つは、どのように整合性が図れているのか、もう一つは、5ページの「プランの位置づけ」ではなくなぜ「見直しの考え方」のところに記載したのか伺いたい。見直しの考え方のところに記載すると、全体を教育施策としてやっていくという風に読み取れてしまいかねない。

事務局

まず一点目の質問について、教育施策大綱の中に、芸術文化を通して市民一人一人の人生がより充実したものとなることを目的とし取組を進めていくとしていることから整合性が取れていると考えられるため、そのように記載している。二点目について、なぜ見直しの考え方に記載しているのか

ということについて、プランの位置づけの箇所は、当初計画を策定した際の内容を記載している。今回は見直し時での追加項目になるので見直しの考え方に記載している。

副会長

説明としてはわかるが、教育と文化とは似ているが、違うものだと認識している。教育は学校教育含め、決まったものを教える、学ぶものである一方で、文化とは交流を生み出したり、創造が生まれたりするもので、どちらかと言えば逆のものと位置づけられる。見直しの時点で検討したということはわかるが、このような書き方であると、全部の方向性、取組を教育施策大綱のもとに作ったように見えてしまうのではないか。それは本意ではないと思うので、可能であれば検討いただきたい。

事務局

「見直しの考え方」もしくは「プランの位置づけ」のどちらかに記載すべきか検討したが、これまで教育施策大綱がありながら、プランの位置づけには触れられていなかったこと、教育施策大綱が同時期に見直しを行っていたことから、見直しの考え方に記載することとした。

副会長

教育だけではなく、福祉、産業振興でもこのような計画はあると思う。なぜ、教育だけ出てくるのか、と思われぬか。

委員

締めのところに入っているという位置も含めてそのような印象をもたれるのかもしれない。

副会長

多くの自治体ではこのような文化の部署は教育委員会に位置付けられているが、大野城市は市長部局にあるということは、新しい考え方で施策が行われているため気になってしまった点である。

事務局

大野城市の教育施策大綱を策定しているのが教育委員会ではなく、市の企画部門である経営戦略課が作っているものであるため、教育部門からの意見ではなく、市を統括する部門から、整合性を図ってほしいという意見が出たためこのような書き方になっている。

副会長

入れないでほしいというわけではなく、様々な分野と横断していこうというのがこのプランにも関わらず、他の内容のものが出てこないことに、違和感を感じた。

3 報告事項 令和5年度進捗状況報告・評価

【①芸術文化情報発信サイト整備】

事務局

資料2をもとに全体のスケジュールについて説明。

資料3「①芸術文化情報発信サイト整備」について説明。

委員

相談機能とあるが、自分が何か教えている人がいて、生徒を募集したいときに募集を図るなど、アーティストと個人をつなぐものなのか。

事務局

ここでいう相談機能とは登録して下さっているアーティスト等が管理者に相談するものである。ただし、アーティスト自身もサイトを用いてメンバー募集を図ることができるようになっている。

委員

年齢の高い方は使用することが難しいのではないか。対面で説明会する機会はあるのか。

事務局

集まれる機会があるかなど課題はあるが、何かしらの形でフォローしたいと考えている。

委員

作ったはいいがあまり活用されていないサイトがよく見受けられる。サイトを見張っていく担当者を一人決めた方が良い。アクセス数を比較したり実際「役に立つ」ものになっているのか、利用者に確認し続けるべきである。サイトをキープする作業を誰が行うのかをはっきりとした方が良い。文化連盟の団体であれば、会議等に足を運んで説明したり、マニュアルを作成するなど工夫する必要がある。

会長

一度アクセスしても、つまらなければその後アクセスすることはないと考えた方が良い。サイトを見たときに面白そうと思ってもらわないと、先につながらない。利用者を増やしていくことはたいへん大事。デザイン含め、おとなしすぎるのではないか。芸術文化の敷居を低くするという目的があることはわかるが、インパクトに欠けていると思う。デザインのイラストが公園のPRのように見える。こういうことをやっているのであれば自分もやってみたいと思えるようなものがよいのではないか。

事務局

学校でタブレットが配布されていることもあることから、子どもも親しみをもってもらえるようなデザインとした。また、芸術文化がまちの身近な場所にあるということを表したく、スタイリッシュなものでなく、このようなデザインとなった。

会長

再度デザインを検討できないのか。

事務局

指摘いただいている箇所は、色味か、それとも全体的な雰囲気なのか。

会長

一部スライドの写真が入るのか。

事務局

スライドにて複数の写真を掲載するので、活動の写真などを掲載したいと考えている。

会長

写真でインパクトを与えるか。なにかひとつ追加できないか。

事務局

業者と話をしているときに、写真が目立つデザインにした方が良いとのアドバイスもあった。

委員

お知らせの字も小さいのではないか。

事務局

パソコンで見るとはもう少し大きく表示されると思う。

副会長

トップページの「一緒にアートな日常を楽しみませんか」の箇所は、どこかに連動して更新するものなのか。

事務局

登録されたら自動的に更新されるわけではないが、管理者側で変更することはできる。

副会長

最初にホームページを見るときは、上部しか見ないとなったときに、毎回同じサイトだと感じてしまうのはよくない。このようなサイトを作る際は更新性が高いものを上に持ってくるようにするものである。そういう意味で上の部分は変化するのかなと思った。

事務局

写真の部分は変化する。

副会長

しかし、管理者側が変えないと変化しないということか。お知らせやイベント情報が更新されたら変更するわけではないのか。

事務局

管理者側で変更しなければならない。

委員

最初に目に入るように、山の下に文字を持ってきてはどうか。

副会長

もう一点気になったのが、オンライン展覧会というコーナーがコーナーとして成立しうるのか。更新されずにそのままになってしまうのではないか。逆に市民レポートはレポーター制度の在り方にもよるが、1～2か月に1回は更新されることが想定される。またアーティスト情報は更新頻度

が低いと思うので、動いている感じがするような掲載順に検討する必要がある。お知らせも個々の人が登録できないのか。管理者のみなのか。

事務局

お知らせは、アーティスト登録など、何か登録されたら、自動的に更新されるようになっている。

副会長

この画面で見ている空白の加減かもしれないが、もう少し動いているようなものになるといいかなと思う。スマートフォン版ではどうなるのか。

事務局

スマートフォン版はそのサイズにあったデザインを行っている。デザイン全体を変更することは難しいが、掲載順など可能な範囲で修正することは可能だと思うので、業者と協議したい。掲載順を変更できるとしたら、お知らせ、イベント情報、市民レポート、アーティスト、オンライン展覧会でよいか。

委員

これは子どもたちにもわかりやすいといえはそのようなイメージでもある。

副会長

「アートを作りたい」という文言があるが、音楽をやる人は「アートを作りたい」とは言わない。

委員

「アート」という言葉を並べる必要はないと思う。使う言葉が芸術の分野によって、少しずつ違うので、例えば「やってみたい」など言葉の選び方は考えた方がよい。言いたいことが伝わるような工夫が必要。サイトは実際に運営したのち、定期的にアンケートを実施した方がよい。作る側はわかっているが、見る側はどこを見ていいかわからないものである。市民レポートは何が掲載されているかわかりやすい。

会長

サイトは更新性がとても大事。はじめに作ったからこれでいいということではなくて、どこかでタイミングを見ながら、その都度サイトを変えていく、更新するつもりで立ち上げることが大事。そのことを頭に入れておいてほしい。

委員

インパクトのあるトップページとの意見がでていたが、背景等を安河内会長の絵やアーティストの活動写真等がスライドで出てくようなればインパクトがでるのではないか。

【②芸術文化を支える人材育成のためのアートマネジメント研修】

事務局

資料3「②芸術文化を支える人材育成のためのアートマネジメント研修」について説明。

委員

次年度以降に向けて、「誰が」このファシリテーターやレポーター制度をうまく運用していくのかという「仕組み」づくりが重要である。具体的には予算と担い手。市以外の組織に運営を委託するとしても予算の追加配分が必要であるし、市で職員を増やすことも工夫がいるだろう。いずれにせよどの方向にむけて進めるのかは、その後の体制との関係によって変わるだろう。次年度、検討が必要。

【③身近な場所での芸術文化イベントの実施及び支援】

事務局

資料3 「③身近な場所での芸術文化イベントの実施及び支援」について説明。

委員

以前、ランドセルクラブでの芸術文化活動が子どもたちの身近な場所であり、ランドセルクラブ運営側も開催するための情報を探しているとのことだが、それもこの中に入るのか。

事務局

教育の分野になるので、他分野との活用にもなるかとは思いますが、コーディネーターもまどかぴあにアーティスト情報など尋ねているようなので、今後も連携を図りたいと思う。また、サイトにアーティストが登録されればそこから探してもらうこともできると考えている。

委員

子どもたちの中で芸術文化体験の格差が生まれている。学校の中であれば平等に体験することができるという話をよく聞く。また、様々な補助金やアーティスト派遣等に申請する学校はいつも同じになってしまうとのこと。理由としては、申請書の書き方が煩雑であることなどが挙げられる。先生も忙しいというのが社会問題になっており、全部の学校へ派遣事業を行うのは難しいと思うので、学校だけではなくランドセルクラブを使ってみたり、コミュニティセンターを使ってみたり、あらゆる方向で実施しないと子供たちに届かないと思う。また、子どもの頃の芸術文化体験がないと、そのまま大人になってしまう。せめて子どもの時期に、同じように文化芸術体験をさせたいと考えているので、行政も目配りしてほしい。神奈川県は、県と一緒に県内で子どもの貧困率が高い地域に体験型の事業を実施するなど取組を進めている。芸術の鑑賞が少ないとされる地域に対するアプローチも行政が気をかけてほしい。

会長

教育と一切離れた形で、子どもたちに触れてもらいたいとまどかぴあも取組を考えている。

委員

大野城市も広く、まどかぴあが遠いという人も多い。

会長

遠いところからも来てほしいが難しいので、こちらから出かける取組も少しずつ始めているところである。

委員

学校での活動は予算がかからなければ実施することはありがたい。ただし年間で講演会を開催する数が決められているので、授業時間との兼ね合いで何度も実施できるというわけでもない。

【④芸術文化の他分野への活用】

事務局

資料3「④芸術文化の他分野への活用」について説明。

副会長

連携会議が1回しかできていないことが残念だと思う。当初、プラン策定後の連携会議はとても雰囲気がよく、役所の人でもこのような形でワクワクしながら会議ができるのかと勉強させてもらった。その雰囲気が残っていないということだと思う。策定当初のこれから新しいことができるかもしれないというワクワク感だったのが、会議をするための会議になりつつあるのではないかと。中間見直しを経て、改めてこのプランの将来像にあるように、あらゆる分野をつなぐ「基盤」となる会議となり、「うちの課でやっているこの事業に芸術文化を活用できないかな」などちょっとした思いつきを持ち寄れる場所となってほしい。先ほど「わたしが知ってる大野城のはなし南地区の巻」の報告中のNPO法人共働のまちおおのじょうの方の反応はすごく重要だったが、普段から困っていることを共有できる場だったと思う。そういう場から、芸術文化を活用した取組を生み出せるような会議体に変えていけるような取組を次年度に行ってほしい。

委員

「絵本とダンス」は具体的にどのようなことを行ったのか。

事務局

読み聞かせボランティアが読んだ絵本の内容を、ファシリテーターのもとで、身体で表現するプログラム。

委員

聞いている人も身体を動かすのか。

事務局

聞いている人も一緒に行く。

委員

絵本はスライドか。

事務局

絵本そのものを使用した。多い人数でもなかったのですが、お子さんに前に来てもらうなどして、読み聞かせを行った。

委員

絵は見えたのか。

事務局

見えやすい位置に来てもらうなどした。見えないという声は聞こえなかった。読み聞かせボランティアは普段活動されてあるので、その辺りは考慮しながら実施していただいた。

委員

選曲はどのように行ったのか。

事務局

ファシリテーターは打楽器もされる方なので、曲というよりはリズムを奏でていた。絵本と関わりがある音楽、楽器というわけではない。このファシリテーターに依頼した理由も、日頃から子ども向けにプログラムを行っているためお願いすることとした。

委員

保育園、幼稚園を回っていた経験がある。そのとき最も難しいのが選曲であった。絵本の雰囲気合う曲を選ぶのがとても難しい。だれか中心になって、引っ張る人がいると楽になる。そうでないと色々な意見がでてまとまらない。この場合、アーティストが選曲を行ったのか。

事務局

今回のワークショップは、プログラム構成等すべてファシリテーターであるアーティストが行い、みんなで話し合いながら中身を詰めていった。毎年、コミュニティ文化課では、コミュニティセンターに出向いて絵本の読み聞かせのイベントを実施していたが、その場では親子でのかかわりがメインとなっていた。今回はダンスが加わったこともあり、参加者同士の交流が生まれ、これまでの読み聞かせだけとは違う良さがあったなと感じた。

副会長

前半を見に行っただが、特に良かった点はメインのファシリテーターは音楽家ではなくダンサーであったことだと感じた。子どもたちの盛り上がりにあわせて、音楽を奏でたり、絵本の読み聞かせを行うときは、そちらに集中できるような雰囲気を作るなど工夫してやっておられた。そのようなプログラム作りを音楽の人ではなくダンスの人が担い作っていたというのが良い雰囲気を生んだと思う。

委員

コンテンポラリーダンスの人が様々な取組を行っている。最近では、校歌を踊るということを実施したと言っていた。振付がつくと代々引き継がれていくとのこと。若手ダンサーのレベルが上がっていると感じた。しぶしぶ歌う校歌が、振りがつくことでのびのび生き生き歌うことができているとう事例もある。ダンスは言葉がない分、子どもから大人まで楽しむことができるような感じもする。若手のダンサーが大野城でも活動してもらえると幅が広がるのではないかな。

委員

当時、保育園や幼稚園を回っていたとき、子どもたちはとても喜んでいました。このようなことが大野城市でもできるとよいなあと思っている。今回の取組は、素晴らしいものだと感じた。

会長

今日の会議では、サイト等、今回の意見を踏まえ修正できるところは修正しながら進めてほしい。また、連携会議については、会議をするための会議にならないように進めていってほしい。

事務局

了解した。

3 その他

4 閉会